ここでは『詩経』『藝文類聚』『文選』等の「鶴」にまつわる古典籍からの故事の投影がうかがわれる語として使用されているように思う。→ 補説①

90○嚇　…叱り怒って発する語。かっとなって怒り叫ぶ。写本の一部や刊本は「赫」に作る。

○雛　…「雛」の事である。「鵷雛」という鳳凰の一種。『荘子』「秋水」の故事を踏まえる語。→ 補説②

この字を写本の一部では、89句の四字目の「雌」と対を成す語として「雄」にするものもあるが、この詩句内容から考えて、ここでは採らない。

○鳶　…とび、トンビ。この語も、前述の『荘子』「秋水」の故事に基づいている。一方、『荘子』では「鳶」ではなく「鴟」となっている。道真はここを敢えて「鳶」の語を使っているのは、押韻の関係で「先韻」の「鳶」を使ったものと考えられる。ちなみに「鴟」は「支韻」である。

▼「鴟」の意は、「①とび、トンビ」の意のほかに「②フクロウ」の意がある。『荘子』の故事では、「フクロウ」の意で使われている語である。

とすれば道真は、この句で「フクロウ」の意で「鴟」を使うべき所を押韻の関係上、別意の「とび」の意も含むことを掛けて「鳶」を代用したと推測される。したがってここでは「フクロウ」の意と解釈してみる。

91○墮　…こわす。やぶる。こぼつ。

○奔　…急いではしる。勢いよく流れる。

92○溜　…したたり落ちる水。「溜」に、水滴がしたたる意があることから、「水がたまる意」に用いるようになった。